

認定看護師の
活動について

慢性呼吸器疾患 看護認定看護師

3階南病棟 大崎 仁美

COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息、肺線維症などの慢性呼吸器疾患患者さんは、日常生活動作に「息切れ」を感じることで活動の幅が狭くなり、心身ともに苦痛を感じている人もいます。そのような病気を抱えながら生涯共存していかなければならないのが慢性呼吸器疾患であり、日常生活に様々な問題が発生することも予期しなければなりません。

慢性呼吸器疾患認定看護師の専門性は呼吸ケアであり、患者さんの呼吸困難を少しでも軽減させ、患者さんと家族の不安や悩みなどの気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活が送れるよう支援していくことが私の役割であると考えています。

私が慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得して約10ヵ月が経ちました。まず取り組んだのは誤嚥性肺炎クリニカルパスの作成です。

高齢者の主な肺炎に飲み込む力が低下することによって起こる誤嚥性肺炎があります。高齢者の多い浜田圏域では、誤嚥性肺炎で入院する患者さんが今後増えていくことが予測されます。そこで、誤嚥性肺炎クリニカルパスを作成し、誤嚥性肺炎の治療に加え、さまざまな専門職種が協働し、患者さんの回復能力を引き出し、誤嚥性肺炎の早期改善、早期退院を目指した取り組みを行いました。看護実践では、痰を出す援助や呼吸が楽になる援助を行い、それらが継続して行えるようスタッフへの指導を行いました。



この10ヵ月間は病棟内での活動を中心にしましたが、今後は、病院全体の患者さんや、外来通院中の患者さんに対する呼吸ケアの実践を開始します。特に、通院治療中の患者さんへ呼吸ケアを実践したいと考えています。

慢性呼吸器疾患は状態が悪くなったり良くなったりを繰り返しながら、全体的な機能が次第に悪化していく病気です。症状が改善し、また楽になったと思っても、健康レベルの状態に戻ることはありません。慢性的な病気を抱えながら悪化させないように生活するためには患者さん自身の管理が必要です。自宅での生活状況を考えながら、できるだけ息切れを感じることなく生活できるような方法を考えていきたいと思います。

